

強度増したダケカンバ製バット 林産試が旭大野球部に寄贈

道立総合研究機構林産試験場（林産試）は道産ダケカンバ製のバット20本を旭川大野球部に贈った。ダケカンバ製のバットはプロ野球北海道日本ハムの元内野手田中賢介さんが昨年、引退前に公式戦で使っており、林産試は大学野球リーグなどに広げたい考え。

林産試は主にパルプ用チップに加工されるダケカンバの活用策としてバット製造を研究してきた。旭川大には昨年初めて寄贈したが、大半が折れてしまい、強度が

課題だった。今回は1立方センチ当たりの密度0.68gのダケカンバで製造。強度は昨年の密度0.64gから改善した。

旭川大では19日、林産試の秋津裕志・研究主幹が見守る中、このバットを使った打撃練習が行われた。土屋空主将（3年）は「昨年より球が跳ね返り、打った感触も良い」と話し、鷲田義典監督は「普段使っているバットと遜色ない。公式戦でも使えれば」と期待を口にした。（若林彩）



ダケカンバ製バットを手に、選手に打った感触を聞く林産試の秋津さん（左）